

中部森林管理局「国有林の地域別の森林計画等検討会」概要

(ホームページ掲載日：平成28年 3月29日)

開催日時及び場所	平成28年2月24日(水) 13:30~16:00 中部森林管理局大会議室
委員	赤堀 楠雄 (林材ライター) 大森 清孝 (飛騨生態調査研究室代表) 岡野 哲郎 (信州大学農学部教授) 加藤 正吾 (岐阜大学応用生物科学部准教授) 滝澤 栄智 (長野県森林組合連合会専務理事) 寺田 菜穂子 (柚の杜学舎) 藤沢 茂 (岐阜県木材協同組合連合会副会長) 本田 恭子 (環境教育ネットワークとやまエコひろば代表) 山崎 真理子 (名古屋大学大学院生命農学研究科准教授) 山下 眞佐子 (富山県自然保護協会理事) 横井 秀一 (岐阜県立森林文化アカデミー教授) 検討委員11名 うち山崎委員欠席
議事内容	○平成27年度に策定する森林計画(案)について 【中部山岳、長良川、尾張西三河森林計画区】 ○平成27年度に変更する森林計画(案)について 【神通川、千曲川下流、千曲川上流、木曾谷、飛騨川、木曾川、東三河森林計画区】 ○地域管理経営計画書の別冊「管理経営の指針」(案)について ○質疑応答
委員からの主な意見	○低密度植栽等、低コスト造林の実施にあたっては、生産される木材の質にも留意してほしい。 ○造林・保育のコストは森林を作るための投資としてしっかり捉える必要がある。 ○低密度植栽の場合、間伐による選択枝が少なくなることから、成林させるためには苗木の品質を一定レベル以上に安定させる必要がある。 ○低密度植栽と木材の質との関係性などを調べていく必要があり、研究者の協力が必要だ。 ○国有林で積み上げた森林施業の実績を、民有林で行う森林施業の参考となるよう発信されたい。同時に豊富な現場を持っている国有林で技術者養成を行い、日本の林業技術の底上げにつなげられたい。 ○現在ある複層林をどのように取扱っていくのか検討されたい。その際、木材の生産方法についても考慮されたい。 ○木材安定供給は民有林だけで担うことができず、官行造林の活用を含めた国有林の一層の協力が必要である。 ○木曾悠久の森は、人為が加わって成立した天然ヒノキを中心とした森林で、本来は広葉樹も混交した森林であるため、復元を目指す森林の姿を考えて取り組まれたい。 ○木曾悠久の森の取組は、モニタリング結果をフィードバックしながら柔軟に対応することが必要だ。 ○長野県では減少し続けていた林業就労者が平成26年に増加に転じた。新規就労者を維持することにも配慮されたい。 ○地域住民に愛着を持ってもらえるような森づくりと地域の技術者養成を国有林が主導的に行って欲しい。 ○温暖化の影響から高山帯においても植生や動物の生息域が変化している。温暖化の影響を考慮しつつ、高山帯の生態系保全に取り組んで欲しい。 ○シカ、イノシシを本来の生息域に戻すため、林道を一般に開放し、通行量を増やして移動ルートとして利用しにくくしたらどうか。 ○木のおもちゃが人気となっているが、建築関連での木材需要量はどのようになっているのか。 ○未利用の林地残材のバイオマス利用を増やす方策を一層検討すべきである。 【総括】 計画案と指針案は原案のとおり了承する。中部森林管理局は各委員の意見を参考として、計画を進められたい。